

滋賀県における

若年層献血推進の取組について



はじめに

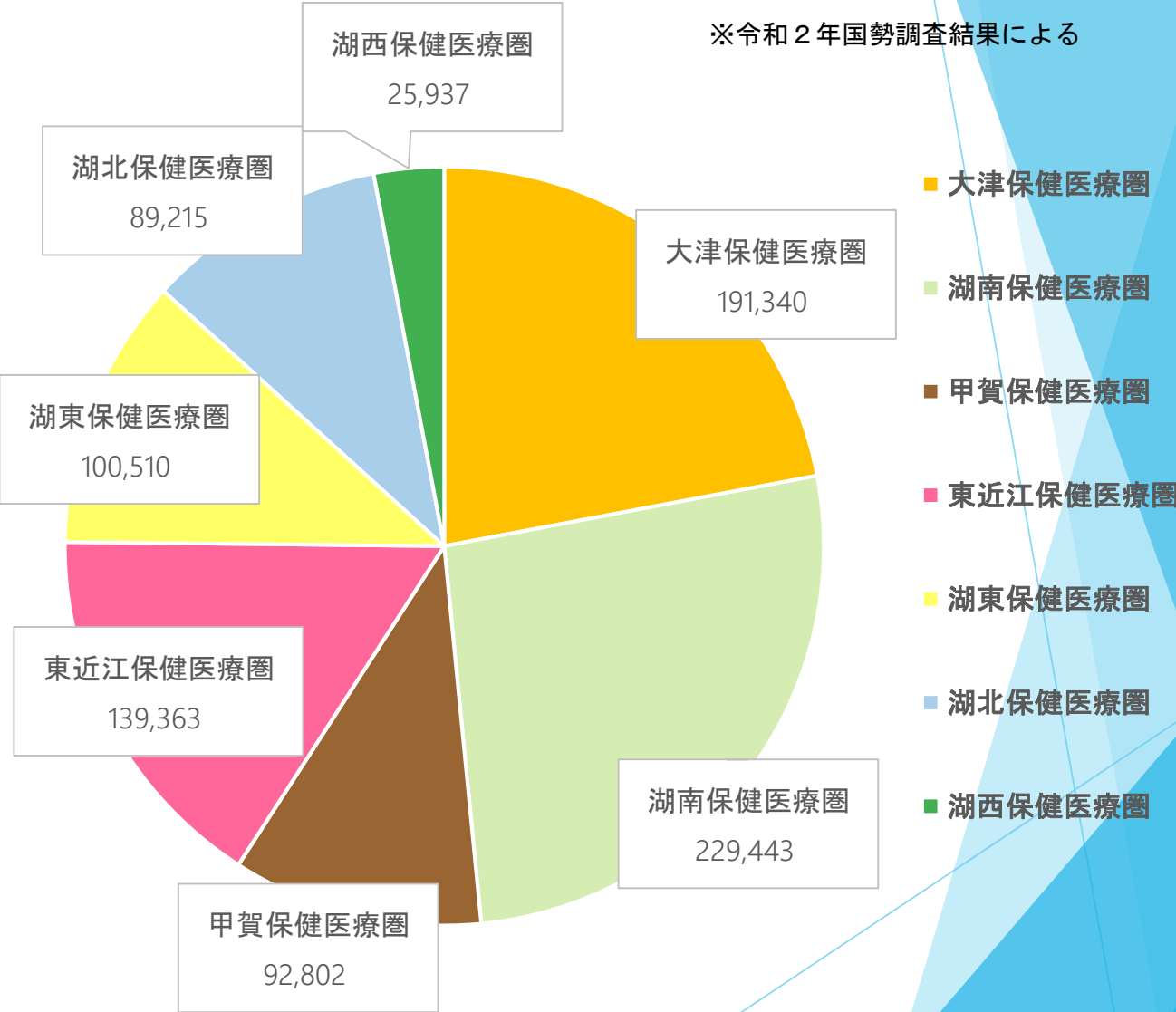
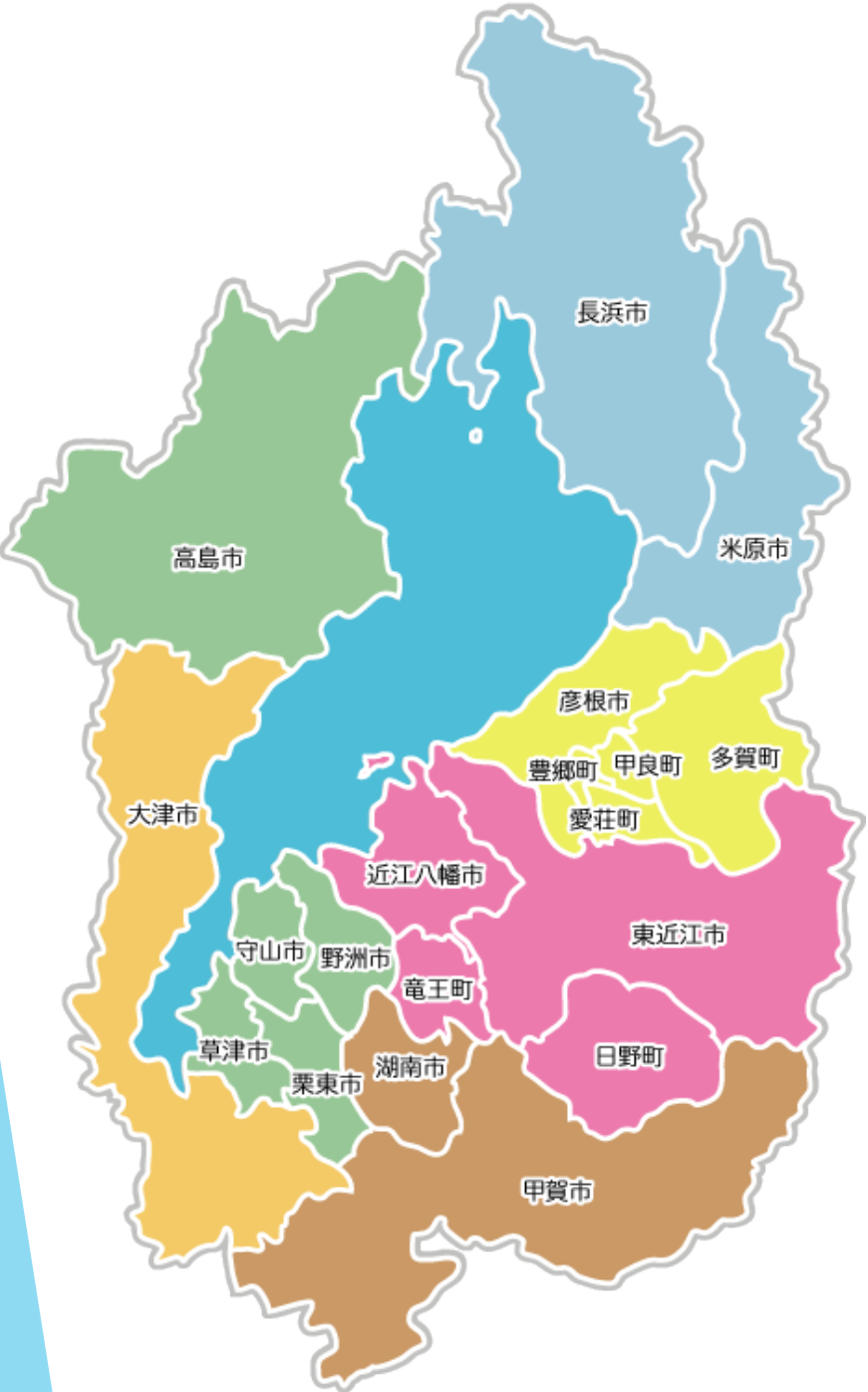
- ▶ 滋賀県では、平成27年度における献血者数に占める若年層（10代から20代まで）の割合が17.9%となっており、全国44位であった。
- ▶ 平成28年度も、同割合が16.7%で、全国45位となっており、若年層への献血推進・普及啓発が喫緊の課題となっていた。
- ▶ このような状況の中で、平成28年度に「平成29年度若年層献血推進アクションプラン」を策定した。

滋賀県の状況

- ▶ 本県は、人口に南北格差が見られるものの、その偏在が比較的小さく、また、交通の利便性も高いため、県外に通勤・通学している県民が多い。
- ▶ 県内に大きな繁華街等が存在しないため、京阪神や名古屋など、近隣の大都市に遊びに出る人も多い。
- ▶ 以上のような理由もあり、県内には血液センターが1か所しかなく、献血者数の確保にあたっては、**いかに献血バスまで足を運んでもらうか**、ということが重要となる。

滋賀県における保健医療圏域ごとの昼間人口

※令和2年国勢調査結果による



アクションプランによる取組事例

- ▶ 令和4年度若年層献血推進アクションプランに定めた取組のうち、次の3点を紹介する。
 - 学生献血推進イベント等の実施
 - 献血推進ポスターコンクールの実施
 - 高校生向け献血学習の実施

学生献血推進イベント等の実施

- ▶ 滋賀県学生献血推進協議会が中心となって、夏季、秋季および冬季の啓発イベントを実施する。
- ▶ また、イベントの周知等と併せて、献血をアピールする内容のパンフレットを作成し、配布する。
- ▶ 近年は、京滋合同でイベントを実施するなど、学生献血推進協議会同士のつながりが広がっている。



献血推進ポスターコンクールの実施

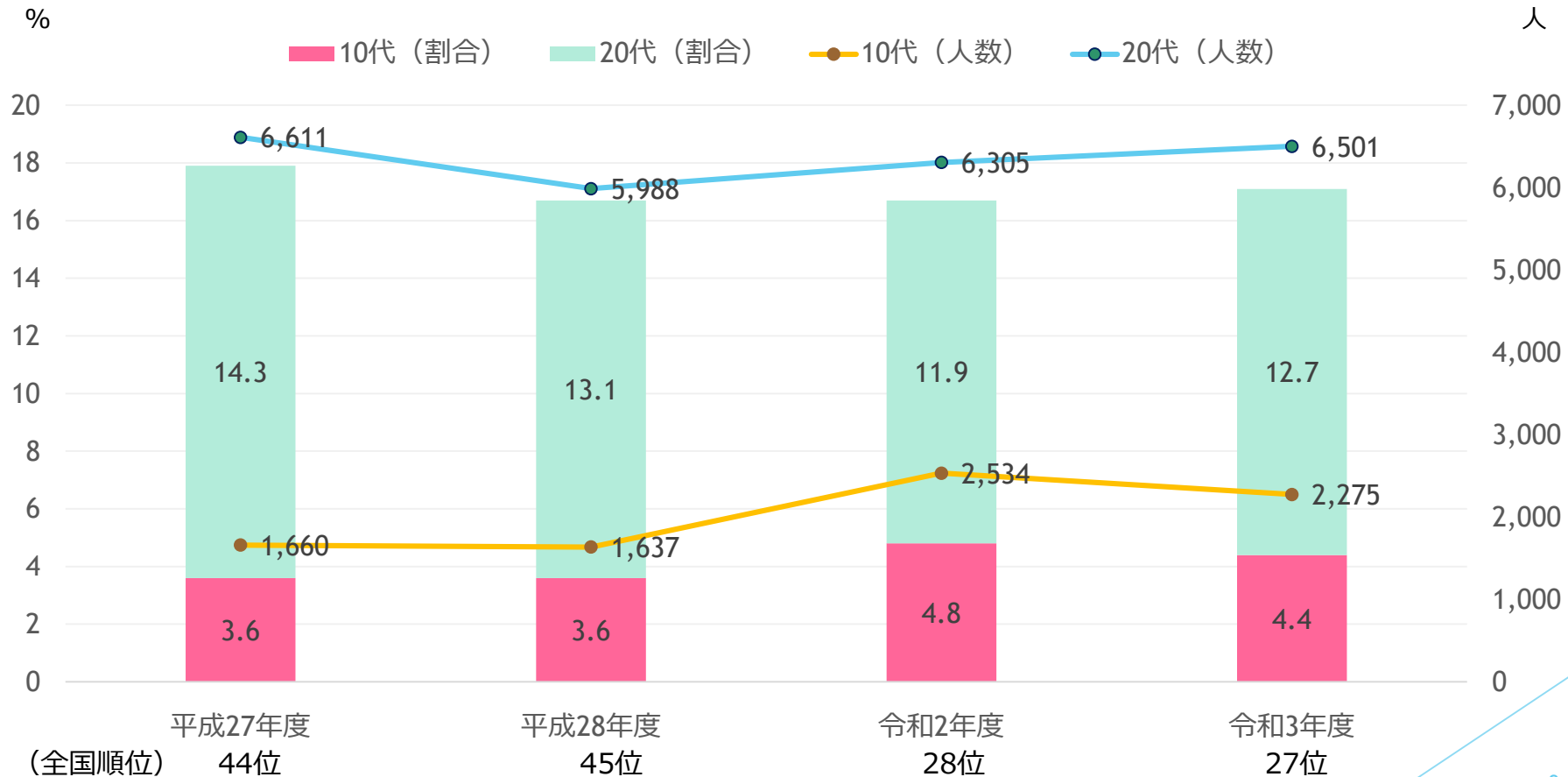
- ▶ 滋賀県が、県内在住・通学の中学生と高校生を対象に、日本赤十字社滋賀県支部および滋賀県赤十字血液センターの協力を得て実施する。
- ▶ 県内各中学校・高校あてに通知文を発出している。
※県立中学校・高校および市町立中学校には滋賀県教育委員会事務局と連名で発出
- ▶ 県ホームページで周知を図るとともに、チラシ兼募集要項を作成し、県内の中学3年生および高校1年生全員に配布している。
- ▶ 入賞者には賞状および副賞（図書カード）を贈呈している。
- ▶ 入賞作品は、県内の商業施設等で展示するとともに、入賞作品を印刷したクリアファイルを作成し、県内の新高校1年生（新入生）全員に配布している。

高校生向け献血学習の実施

- ▶ 県内各高校あてに、献血学習の実施について依頼文を発出している。
※県立高校あてには滋賀県教育委員会事務局と連名で発出
- ▶ 「けんけつ HOP STEP JUMP」を用いた学習を依頼するとともに、滋賀県赤十字血液センターが実施する献血セミナーについても案内している。
- ▶ 併せて、献血バスを受け入れた高校献血の実施を依頼している。
- ▶ 年度の最後に県内各高校にアンケートを取り、実施状況の確認を行うとともに、血液センターと情報を共有している。

取組の成果

若年層の割合および献血者数



おわりに

- ▶ 若年層の中でも、特に学生は入学・卒業に伴い、その対象者が毎年変わるため、献血の重要性・認知度を高めていくには、啓発活動を継続していくことが重要である。
- ▶ 本県の成果でも示したとおり、若年層の比率が上がっているわけではなく、数値的にはほぼ横ばいである。
- ▶ 本県の順位が上がった令和2年度・3年度は、新型コロナウイルス感染症の与える影響が大きかったため、今後の定着や更なる増加を目指すためには、引き続き努力が必要である。